

## <今朝の聖書から>

【その前に】バプテスマ（洗礼のこと）のヨハネの記録です。『全き愛』の5月号（No.714）に真柳牧師が、ヨハネ福音書での、同じ出来事について、書いておられますので読みましょう。

【バプテスマのヨハネ】“父と子と聖霊の名による罪の赦しの洗礼”がどんなに素晴らしいものであるかを思い出しましょう。許され永遠の命が約束された瞬間です。それは今も有効なのです。“最近なんだかシャキッとしないから、もう一度洗礼でも受けてしっかりしよう”などというものではありません。

【人々の心】“荒廃した”という言葉があります。そんな言葉に相応しい状況だったことがよく分かります。みなユダヤの神を信じていました。しかし、政治の力と一体になった当時の信仰規範は、祭司階級に握られ、律法を守ることでできない貧しい人々を排除し、ひたすら祭儀のしきたりを重んじて、怒りと裁きの神への恐怖が、希望のない社会を覆い尽くしていました。“神との関係を断った世界”でしょう。地獄に通じる世界で、希望も願いもなく、ただ辛抱することと苦痛の、決して終わらない砂漠のような世界です。主は人として洗礼を受けられ、人々を代表して、荒野の誘惑に、この後立ち向かわれ、十字架の上では、“どうしてお見捨てになったのですか”と人を代表して、神に願われました。地獄さえ経験されたのです。

【水のバプテスマと父子御霊による洗礼】今朝の箇所でもヨハネ本人がこのことを告白しています。“わたしは水でバプテスマを受けたが、このかたは、聖霊によってバプテスマをお授けになるであろう(1:8)”と言っています。

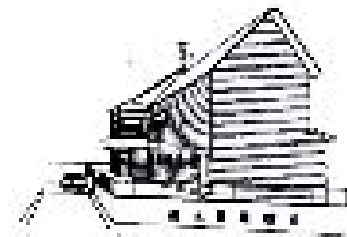
【神様の宣言】“あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である(1:11)”は神様の宣言です。と同時に“心にかなう”使命をも、お与えになったことを宣言しています。

【後から来る方の洗礼】ヨハネは主イエスをこのように紹介しています。

【教会の洗礼】水のバプテスマと聖霊のバプテスマ、ユダヤ教とキリスト教、救い主への待望と救い主の到来、このように私たちは言います。“御言葉がなければ水はただの水”と「小教理問答書」でルターの説明するところです。“このかたは、聖霊と火とによっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう”とマタイ3:11で語られている通りのことが起こった瞬間です。私たちが洗礼から、これが無効になることはないのですが、離れそうになった時、主の悪に対する勝利を思い出すべきです。

# 週報

2010年 5月 30日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042